

(意見書案第5号)

泊発電所1・2号機の再稼働と住民合意に関する意見書

今、北海道と北海道電力は、泊発電所1・2号機のストレステストを終え、早期再稼働を目指している。しかし、ストレステストの結果だけで、安全性が保証され、再稼働の条件が整うわけではない。新聞の世論調査でも、泊発電所1・2号機の再稼働については、「認められない」、「現状では認められない」が合わせて75%を占めている。

そもそも再稼働には、地元自治体の合意が必要であり、既に北海道は再稼働を認めるかどうかの判断基準として、泊原発の安全性の確認を求めている。北海道電力は、原子力安全・保安院から見直しの指示を受け、複数の活断層が連動することを仮定して揺れを計算し、耐震性を評価し直すと原子力安全・保安院に報告している。この結果、従来 of 想定が引き上げられれば、テストのやり直しや修正が迫られることになる。

よって、北海道においては、住民合意なしに泊発電所1・2号機の再稼働は認めず、そして何よりも住民の安全を第一に対応するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年3月19日

釧路市議会

北海道知事 宛